

理事 新晃工業
執行役員

青柳 泰之

一般社団法人日本冷凍空調工業会がこのほど創立70周年を迎え、理事の一人として、これまで当会の活動を支えてくださった皆様

に、改めて厚く御礼を申し上げます。新時代・令和を迎え、冷凍空調業界では、省エネ・快適に加え、環境性能でも一段と要求が高

度化しており、業界に連なる企業の一員として、出来るだけ多くのニーズにお応えして参りたい。

さて、私が所属する新晃工業は業務用空調機器の専

業メーカーであり本欄では本製品市場の現状と展望を綴りたい。



本製品の過去10年間は、リーマンショック直後から始まっている。物量面では底から始まり、いま繁忙ピークを迎えた建設ブッシュに伴う需要拡大へと繋がる時期であった。この間、建

設・設備各業界の方々から頂いた要望としては環境や快適の性能向上など本製品を用いるセントラル空調システムの最適化要望が多くを占め、熱源機側と二次側機器を統合設計する動きが加速した。

低温再生の進歩等と相まって一般事務所空調の快適性と省エネルギーを作る空調デバイスとして注目されてきた。社会のIT化加速を背景に増設の勢いが増したデータセンター向けの空調ではフリークーリングや外

顧客視点の経済性能の競争に

また、製品別では直膨式AHUの普及が拡大し市場が形成された。2009年以降、一層高まる省エネ要求への回答として潜熱・顕熱処理の省エネシステムが構築された。潜熱処理では産業界の低温環境づくり中心に採用されるデシカントが

大きく向上したほか、駆動方法もベルト方式から直動へと変化し、電動機はIPMモーターやIE3の汎用化へ切り替えてきた。また、冷水供給温度が省エネ化追求の結果として上昇し、さらに搬送動力削減に

さて、今後の10年を展望すると、本製品に求められるのはデータテクノロジーや環境性に加え、エンドユーザーから見た経済性や性能、使い易さとなるだろう。日常のメンテナンスが容易、交換部品が手に入り易くサービス対応が迅速などAIやIoTだけでは実現できない性能の競争となる。IT技術を活かすべき部分はさらに活用し高効率デバイス開発と高品質製品の提供を行う、一方で、カタロクス・ベックに表れない、ユーザーという人間が感じとる面の性能向上にも一層注力していきたい。